

なかつ市議会だより

令和7年
9月議会

各常任委員会の意見交換会・管内事務調査

中津市議会の各常任委員会では、それぞれが所管する分野における課題等について関係団体等との意見交換会や所管事務に関する管内事務調査を行いました。

教育厚生委員会

教育厚生委員会は、令和7年7月11日(金)に中津市中学校校長会と意見交換会を行いました。意見交換会では、働き方改革の実情や部活動の地域移行における課題について貴重なご意見を頂き、行政・市議会に求めることについての意見交換が行われました。



産業建設消防委員会

産業建設消防委員会は、令和7年9月4日(木)に中津市工業連合会と意見交換会を行いました。意見交換会では、高校卒業生が就職や進学で地元を離れていく課題と、地元企業における地元新卒者の採用や人材育成といった要望に対して、様々な意見交換がなされました。

総務企画環境委員会

総務企画環境委員会は、令和7年9月5日(金)に防災拠点の現地調査を行いました。公益財団法人B&G財団の支援を受けて実施されていた「防災拠点の設置および災害時相互支援体制構築」事業における防災倉庫や救助艇等の資機材配備が完了したため、今後の計画等について調査を行いました。



「なかつ市議会だより」は、中津市ホームページにも掲載しています。

<https://www.city-nakatsu.jp>

なかつ市議会だより

検索



発行／大分県中津市議会

発行年月日／令和7(2025)年11月1日

代表質問

- ◆毎年9月議会において、会派の代表者が具体的政策を、主に市長及び教育長に対し質問するもので、今回が17年目になります。
- ◆QRコードをスマートフォン等で読み込みいただくと、インターネット中継の議員ページにアクセスします。



市民の会

代表質問者

木佐貴 佳子



◎地域包括ケアシステムの深化と健康づくりの推進

問 高齢化率の高い旧下毛地域において、安心して老後が過ごせる医療・介護サービスのさらなる充実が必要です。そこで、中津市民病院と国保診療所の連携によるオンライン診療や巡回診療車両の導入などによる地域医療体制の確保が急務と考えますが如何ですか。

答 旧下毛地域におきましては、地域人口の減少に加え医師の高齢化や医師の確保、通院時の交通手段の確保が課題となっており、将来的に現在の医療体制を維持することが難しくなると考えています。市では、国保診療所の再編に加え、ICTの活用やオンライン診療車の導入など、民間診療所も含めた旧下毛地域全体での医療体制の見直しを市民病院とも協議し進めています。そういった中、令和6年7月に槻木診療所において医師が不在となりましたが、津民診療所との連携により、オンライン診療を実施しております。



槻木オンライン診療の様子

◎誰もが活躍できる多様性のある地域づくり

問 一昨年に設立された外国人総合相談センターや、今年度配置された多文化共生係との連携で、交流イベント等が開催されるが増えましたが、現状として、市が把握している問題と対策についてお伺いします。

答 外国人住民からの相談で多いものは「求職や雇用に関するもの」「日本語の習得」があります。また、地域からも「外国人との交流」や「生活ルールとマナー」に関する相談も寄せられています。こうした状況も踏まえ、令和7年度については多文化共生推進事業として「地域交流会の企画・運営」「地域住民向け・外国人住民向け、それぞれの啓発事業」「日本語の習得支援の拡充」の3点に取り組んでいます。また、多文化共生を進めていくには、推進体制の強化や様々な主体との連携が不可欠です。そのため、相談センターを運営するNPO法人や主な国籍ごとのキーパーソンとの情報共有を定期的に行っているほか、今後、外国人を雇用する主な事業所を訪問し、意見交換することも検討しています。



日本語なかつの様子

◎企業誘致の促進

問 現在、新たな工業団地の整備計画を三光臼木・諫山地区で進めています。どのような業種の企業を求めているか、どのような企業への働きかけを行っているのか伺います。また、中津日田高規格道路・東九州自動車道路のインターチェンジ周辺に工業団地を造成すべきと考えますが如何ですか。

答 今回の産業用地開発は、約30年ぶりの大規模な産業団地開発です。自動車、半導体などの集積産業を中心としつつ、女性や高度人材（研究・開発部門など）が活躍できるような業種も含めて企業誘致を行ってまいります。また、国の指定した半導体や蓄電池など、将来、高い成長が見込める12の特定物資を製造する産業やそれらを支える物流拠点の誘致も視野に入れております。

令和5年度に実施したスクリーニング調査で15ヘクタール以上の候補地は、農地が2か所、山林が1か所でした。まずは、三光臼木・諫山用地の整備を進めますが、残りの2か所も将来の有力な候補地として考えています。今後も幅広い視点から用地確保に努めてまいります。

開発候補地



三光臼木・諫山開発候補地

◎「学びの里なかつ」の推進

問 学校を「すべての子どもの居場所」とするために、まずは、必要な学校全てに登校支援員を配置した教育支援センターを早急に設置する必要があると考えますが如何ですか。さらに、学校における環境整備として、体育館のエアコンの設置、防犯などのための教室へのインターホンの完備や校務用携帯の配付も必要と考えますが如何ですか。

答 今年度、小学校1校、中学校6校に登校支援員を配置し、校内教育支援センター、いわゆる別室等の居場所を利用する児童生徒の支援を行っています。令和6年度は5校で59人の生徒が利用することで、不登校を長期化せず済んだことが成果としてあげられます。

学校における環境整備についてですが、今議会の補正予算において、中学校6校分の体育館の空調整備費を計上しています。教室へのインターホン設置等緊急連絡用の機器の設置については、幼稚園はすべて設置済みです。中規模以上小学校においてもほぼ全体に、中学校はほぼ半数の教室に設置済みです。



校内教育支援センター（緑ヶ丘中学校の学習室）



日本共産党

代表質問者

荒木 ひろ子



◎カスタマーハラスメントを生まない中津の正常化

問 不当な要求を生まない、受け入れないカスタマーハラスメント条例の制定を早く。

答 可能な限り早期に制定出来る様進めてまいります。

問 不当要求の再発防止策は。

答 関係機関で不当要求に対する適切な対処と組織的な対応力の向上が不可欠と考え、そのために必要な合同研修を実施します。

問 奥塚市長が中心となり、協定7機関、団体の協議会設置は。

答 協議会の設置については協定を締結した7機関、団体に協議したいと考えています。

問 令和4年1月6日当時の人権・同和对策課長と他の課長が特定の人物に面談したと聞いていますが、面談の理由と必要性は。

答 事実確認を行ったところ、地域からの要望について協議を行ったと聞いています。

問 副市長は特定の人物へのあいさつ行為は今後行わないと答弁されましたが、全職員に徹底されていますか。

答 令和7年2月19日付で市長から、職員の綱紀粛正、服務規律保持の依命通知を全職員に出しました。

◎学校給食について

問 小中学校全員を無償にして。

答 学校給食費の無償化は、国において無償化の実現に向けて検討していることから、市長会を通じて国による公費負担の要望を続けていきます。

問 PFIによる共同調理場の落札業者の提案内容は、中津市各種女性団体連絡協議会大会では食器は現在使われている強化磁器に賛成という人が圧倒的多数でした。アレルギー対応食、地元食材の活用、特に牛乳は地元の耶馬溪牛乳が飲めるのか。オーガニック食材の活用計画は。

答 食器については、落札業者は安全性、作業性、耐久性、更新性等を考慮し、*PEN樹脂食器を提案してきております。食材については、共同調理場とは直接関係がなく特段の提案はありません。食材の提供の拡大については、下郷農協側や農政部局と別途協議してまいります。

問 4カ所ある調理場を1カ所に統合すると、災害が起こった時の対応、民間事業者に15年間まかせると公共性の低下が不安。

答 学校給食事業そのものは教育委員会の責任において管理監督してまいります。



三光調理場の学校給食

◎核兵器も戦争もない世界の発信を中津市から

問 今年は世界で唯一戦争で被爆し80年、広島・長崎の平和記念式典でも「二度と被爆者を出さない、戦争の惨禍を繰り返さない」との誓いが世界に向けて発信されました。中津市での平和の取組みは。また、八面山平和公園が市に寄贈されました。ここでは、日米の交戦の史実が記され、星野村の山本達雄さんが広島から持ち帰った原爆の火が三光の方々の熱心な努力で灯し続けられて来ました。時と共に風化、忘れ去られようとしている多くの戦争遺跡の保存と周知の取組みは。さらに二度と戦争しない誓いを世界に発信できる取組みを。

答 小中学校における平和学習や中津市歴史博物館での戦争企画展、市民ホールでの原爆ポスター展示など、戦争や原爆の悲劇を風化させることなく次世代へと引き継ぐ取組みを行ってきました。核兵器廃絶と人類の恒久平和の実現を願うまちとして、多くの市民の皆さまと継続していきたいと考えています。戦争遺跡の調査など市民の方々に協力いただけることがあればお願いし、引き続き戦争の記憶を次世代に伝える取組みを行いたいと思います。



八面山平和公園の広島原爆の灯

◎中津市内農業者の営農持続化のために

問 令和6年市勢要覧の農家数の推移は、20年間で4.8% (2,500戸余)の減少です。市の現状認識は。

答 農家数減少の要因は高齢化と後継者不足、収入が不安定なこと、労働条件が厳しいことなどから若い世代が農業に魅力を感じにくくなっている一方で、農地の集積が進んだことなどです。

農家数の推移(農林業センサス=2024年版市勢要覧) 単位: 戸

	2000年	2005年	2015年	2020年	20-00年	減少率	20-05	減少率
中津地域	2,153	1,936	1,417	1,116	-1,037	-48.2%	-820	-42.4%
三光地域	772	739	585	348	-424	-54.9%	-391	-52.9%
本耶馬溪地域	664	595	521	319	-345	-52.0%	-276	-46.4%
耶馬溪地域	989	903	816	562	-427	-43.2%	-341	-37.8%
山園地域	634	584	522	365	-269	-42.4%	-219	-37.5%
計	5,212	4,757	3,861	2,710	-2,502	-48.0%	-2,047	-43.0%

合併年度

問 コメ不足への生産者、消費者への対応は。主食を確保する自治体の役割。

答 市では、主食であるコメの安定供給を確保するため、持続可能な農業経営ができるよう支援を行っています。また、今後も地産地消、オーガニック農業の取組みを進めてまいります。

問 共同利用の水路の災害復旧をすすめるために被災農家の負担をなくす努力を。

答 農家負担の軽減に取り組んでいますが、復旧事業費の全額を公費で支出することは適当でないと考えています。

語句の説明

*PEN樹脂食器とは、PEN(ポリエチレンナフタレート)を主成分とした合成樹脂製の食器のこと。



前進

代表質問者

おくむら かずよし
奥村 一義



◎農林水産業の振興について

問 第一次産業は国民の食を支えるものであり、日本の風土を健全に守っていく産業です。だから、衰退させるわけにはいきません。ところが現在の第一次産業は課題が山積みです。中津市として課題を整理して今後どのような取組みをしていくかお伺いします。

答 農林水産業の振興においては、何より担い手の確保・育成が最重要課題であると認識しています。この課題に対し、農業では、今後も引き続き、地域農業経営サポート機構の活用やスマート農業技術の導入などによって担い手の育成・確保に努めます。林業においては、森林環境譲与税を活用し、林業従事者への防護服や安全装備導入、機械化などへの支援、さらに林業に必要な資格取得支援、大分県林業アカデミーの就学支援などを行い、林業従事者の確保・育成に努めています。水産業においては、担い手確保・育成の取組みとして、青年就業者の初期就労時の資金支援や漁船購入補助、漁業学校就学支援などを県と連携して行っています。

◎中津港の整備について

問 中津日田道路の開通に合わせて中津港をどう発展させていくかをお伺いします。港の整備は県や国が主導となることはよく理解できますが、地元の中津市が積極的に声を上げないと実現は難しい。中津市として中津港の発展をどう考えているのでしょうか。

答 中津港は、高速道路にダイレクトにつながるといった交通利便性の高さなどから、ストック効果のモデルとしても紹介されている「重要港湾」ですが、不整形で手狭な中央ふ頭など、まだまだ施設が整っておらず、定期運航船もありません。これまでも様々な要望を出してまいりましたが、今後も、中津港を利用する企業、後背地にある自治体、商工団体が構成する中津港利用促進振興協議会を通じて、新たなマイナス7.5m岸壁の早期整備について、所管する国・県機関に強くお願いしてまいります。



中津港

◎中津駅周辺の開発について

問 中津駅は、産業や観光で来訪する方々の玄関です。行政としても中津市を発展させていくためにまずは中津駅のにぎわいづくりを考えていくべきだと思います。今後、中津駅を中心としたまちづくりについてどのようにしていくつもりなのかを具体的にお聞かせください。

答 駅周辺のにぎわいづくりは、行政の力だけで実現できるものではなく、駅の利用者、周辺の事業者、住民の方々など、地域の意向を十分に踏まえ、これらの関係者と共に駅周辺の将来ビジョンを考えていく必要があります。その過程では、中高生や若者など将来の中津市を担う世代の意見も大切であり、今年10月に開催予定の「こども・若者会議」のような場も活用して幅広い世代から意見を伺いたいと考えています。



中津駅南口

◎学びの里なかつの進捗について

問 不滅の福澤プロジェクトを継承した学びの里なかつプロジェクトはどのような方針で進められていくのか、また、どうすることによって福澤諭吉先生の名を本当に不滅にしていく活動となるのか。具体的な打ち手について市としての見解をお伺いします。

答 不滅の福澤プロジェクトとしては令和6年度にて一旦の区切りといたしました。プロジェクトを通じて福澤諭吉先生の遺した教えの普遍性や中津市における「学びの土壌」の豊かさを再認識したことから、令和6年9月に「学びの里なかつ推進宣言条例」を制定し、学びによるまちづくりを進めていくこととしました。学校教育の充実はもちろんのこと、社会人、高齢者など、あらゆる世代がいつでもどこでも学ぶことができる環境の整備に努めることで、市民の皆様が学びをより身近なものとしていただくとともに、学びを通じて人が集い、高め合い、ひととまちがともに発展していく、そんなまちを目指します。

◎中津らしい多文化共生について

問 中津市では令和7年度の組織において企画市民環境部の中に政策連携・多文化共生係を設けました。この組織を設けたことで、中津市の外国人市民に対するサービスや日本語教育、文化の伝達をどのように行っていくようになるのか、市の取組みや今後に対する考え方を伺います。

答 多文化共生の推進には地域の日本人と外国人が様々な活動を通じて同じ時間を共有し、コミュニケーションをとっていくことが重要と考えています。地域での交流機会の創出に努めてまいります。なお、多文化共生の視点が求められる一方で、社会的受容や制度整備が追いついていないところも実感しております。政府には今後の外国人の受け入れに関する方針をしっかりと打ち出していただき、入国時点で日本語や日本文化・慣習をしっかり学ぶ機会を国として確保するよう、社会保障等も含めたしっかりとした制度設計を求めてまいります。



清流会

代表質問者

さ が ら たか のり
相良 卓紀



◎地域コミュニティの維持・活性化について

問 日本は急激な人口減少を迎えており中津市においても特に山国、耶馬溪、本耶馬溪は合併時からの人口はほぼ半減しています。このままでは、地域を維持することそのものが難しい状況になってきています。その対策にどのように取り組んで行くかお伺いします。

答 中山間地域の人口減少そのものを食い止めることはできていないのが実態であり、行政として、人口減少問題への向き合い方や施策の視点を見直す必要性も感じています。一方で地方には都会にはない「暮らしの豊かさ」があります。そこに生活する人の暮らし満足 (Well-Being) を高める、人口減少社会に適應していく取組みが必要になってくると考えます。

旧市町村別合併後の人口推移 H17.4月～R7.4月

	平成17.4月	令和7.4月	増減数	増減率
中津市	86,485	81,138	-5,347	93.8
【旧市町村別】				
旧中津	68,033	69,223	1,190	101.7
旧三光	5,713	4,862	-851	85.1
旧本耶馬溪	3,897	2,275	-1,622	58.4
旧耶馬溪	5,443	2,967	-2,476	54.5
旧山国	3,399	1,811	-1,588	53.3
旧下毛計	18,452	11,915	-6,537	64.6

◎消防・防災対策について

問 人口減少が進む中、特に旧郡部の消防団員の確保は益々厳しくなるものと思います。今後、条例定数や定年制の見直しが必要になるのではないかと思います。如何ですか。また、南海トラフ巨大地震の発生が予想される中、熱中症対策としての避難所エアコン設置についての考えをお伺いします。

答 地域の若年人口が減少している影響により、退団者数を充足するだけの団員を確保できず、本耶馬溪・耶馬溪・山国の地域では減少傾向にあります。こうした状況を踏まえ、消防本部では、消防団条例の団員定数、定年年齢等について、令和8年度の改正に向けて協議を重ねているところです。避難所となる学校体育館における空調整備の促進を目的とした「空調設備整備臨時特例交付金」が創設されたことにより、今議会において中学校6校分の整備費用を計上しております。残りの学校につきましても、早期完了を目指し、計画的に進めてまいります。

◎農業振興について

問 高齢化が進みあらゆる分野で担い手不足が生じている中、特に深刻なのが農業に従事する担い手の問題だと思えます。米作りの水田栽培から「乾田直播」への動きや、スポーツ選手が農業に携わる例から、スポーツ庁と農林水産省が勉強会を立ち上げるなどの動きもあります。今、日本の農業が大きな転換期にきていると思えます。ピンチをチャンスに変えて、所得とやりがいと魅力ある農業が実現できれば、担い手の確保も可能だと思えますが、如何ですか。

答 国は、昨年、食料・農業・農村基本法を改正し、食料安全保障の強化、農業の持続的発展、農村の振興などを図るため、農業の構造転換の実現に向けた施策を今後5年間で

集中的に実行します。市においてもこれまで、担い手の育成・確保、農地の集積・集約、スマート農業技術の導入、耕畜連携の推進や農地の基盤整備など積極的に取り組んでまいりました。今後は、他業界からの農業参入、特に若い人材のセカンドキャリアとして、期待されています。農業と他業界がより連携を深め、多くの若者が定住することにより、農村の活性化に繋げられるよう、県と連携し、積極的に取り組んでまいります。



農業振興 (コスモス園・耕起作業)

◎企業誘致について

問 三光臼木・諫山地区における工業団地整備の計画が進められています。今回の工業団地の計画は、地元の期待も非常に大きいものがあります。元気なまちづくりのため、更なる企業誘致に向けての市長の思いをお聞かせください。

答 中津市の未来は、企業との協働にかかっています。より多くの企業に中津市で拠点を整備してもらえよう、私が先頭に立って取り組んでまいります。



三光臼木・諫山開発候補地

◎インフラ整備・維持について

問 中津日田高規格道路や中津港の整備が中津市発展の重要な役割を果たすこととなります。整備促進に向けた市長の意気込みをお聞かせください。

答 中津日田地域高規格道路は、沿線の経済を発展させる「観光・経済の道」、災害に強く迅速な救急医療活動を支援する「命をつなぐ道」、中山間地域での日常生活を支える「生活をつなぐ道」として、多方面で大きな力を発揮することが期待されています。中津港は、自動車をはじめ、半導体や窯業など、ものづくり産業の発展が続く中、中津日田道路の開通と相まって、物流面で、ますますその重要性、必要性が高まっています。将来を見据え、国・県に対して積極的な要望活動を展開することで、中津日田道路や中津港などの重要インフラの整備促進につなげてまいります。

◎「学びの里づくり」について

問 昨年の9月議会で制定した「学びの里づくりなかつ推進条例」の精神に基づく、人口減少に立ち向かう市長のまちづくりへの思いをお聞かせください。

答 現在は、社会、経済、国際情勢が急速に変化し、将来の見通しが困難な時代です。こうした時代にしなやかに適應していくためのキーワードが「学び」であると思えます。郷土の偉人福澤諭吉先生は、江戸末期から明治期にかけて我が国が大きな変革期を迎えていた時代、西洋の知識や技術、文化や価値観を学び、「独立自尊」の精神で人々を広く啓蒙されました。この精神を受け継ぎ、次の時代へふるさと「中津」を繋いでいくことが私の責務であり、中津市民の暮らし満足のため、これからも全力で取り組んでまいります。

9月議会 一般質問

- ◆令和7年9月議会において、市政全般に対する一般質問が行われました。その中から主な質問を紹介いたします。(質問順)
- ◆質問のタイトルの中で、色を変えた項目(オレンジ色)についてのみ、質問と答弁の内容を掲載しています。
- ◆QRコードをスマートフォン等で読み込みいただくと、インターネット中継の議員ページにアクセスします。



おおつか まさとし
大塚 正俊
(市民の会)



- 消防本部、耶馬溪分署の建て替え
- 学校体育館の空調整備
- 北部小学校・幼稚園の送迎用駐車場の確保

問 浸水想定区域にある消防本署は築49年、分署は築51年が経過しており、浸水被害の多発を踏まえ、整備計画を早期に策定し、建設に着手すべきでは。

答 更なる消防力の充実・強化と社会環境の変化に対応した防災拠点の整備に向け、関係部署と連携を図りながら精査・検討を進めています。

問 熱中症リスクの低減に向けた市内小学校20校、中学校10校の体育館空調設備の整備計画は。

答 今年度に旧市内中学校6校を整備し、国の交付金採択の状況によりますが、出来れば数年のうちに整備したいという思いを持っています。

問 北部小学校・幼稚園周辺の道路や規制状況を踏まえ、送迎用駐車場を確保すべきでは。

答 通学の原則は徒歩通学であり、保護者による送迎は認めていません。送迎用駐車場を確保した場合、送迎の台数の増加が予測され却って事故の危険性が高まる可能性があるため、徒歩通学児童の安全面を考慮し駐車場の整備は考えていません。



かわうち やちよ
川内 八千代
(日本共産党)



- 学校給食食器
- 不当な圧力から市民と職員を守る市政
- 物価高騰対策
・ 消費税減税・ごみ袋値下げ

問 給食食器はプラスチックを減らして環境を守るためにも現在使っている強化磁器が安全だと多くの市民の声がある。強化磁器の使用を続けるように。

答 要求水準書で、リサイクル製品とするなど食育の推進を図ることを示し、事業者からPEN樹脂製食器が提案されました。全国の多くの学校等で使用実績があり、食品衛生法の規格に適合し、環境ホルモンが疑われる物質も含んでいません。

問 長い間市職員が特定の人物に挨拶に行った目的と効果は。公共工事を受けた業者に市職員から「挨拶に行ってください」と言われた事例がある。市調査では「その事例はない」というが、どちらが本当なのか関係業者からの聞きとり調査を。

答 公共工事を行う際には、自治委員をはじめ、連携して施策を進める必要がある関係団体などに挨拶や説明を行っています。今回の件に関して、内部で聞き取り調査を行った結果、市職員の関与は確認されていません。



つねが しんたろう
恒賀 慎太郎
(前 進)



- 教育施設のLED化について
・ 現在の進捗状況は
・ 蛍光灯の最終取替時期は
- 自転車の安全走行環境を
・ 啓発活動、安全対策の取組み

問 令和5年第4回定例会で質問した、校舎及び体育館のLED化改修事業の進捗状況は。

答 令和4年度より計画的に教育施設のLED化に向け改修を実施しており、本年7月末現在で校舎38%、体育館78%、全体で42%の改修状況となっております。

問 一般照明の蛍光灯の製造、輸出入が2027年末をもって終了します。教室の器具取替目標は。

答 空調他多くの課題があり、学校における様々な施設、設備面の課題を勘案して取り組みます。

問 来年4月から16歳以上の自転車利用者に対する交通反則通告制度が適用されます。法改正の啓発活動や自転車に配慮した道路整備対策は。

答 法令の改正点におきましては、各種会合や講話のほかケーブルテレビなどを活用しながら市民への周知、啓発を進めています。また交通事故全体に占める自転車関連事故が増加傾向にあることを受け、安全な道路空間の構築に努めてまいります。



ちきむら たかゆき
千木良 孝之
(市民の会)



- 宅配ボックス設置について
- 中津駅周辺の整備について
・ ポイ捨て対策(喫煙場の設置)
- 多文化共生社会の取組み
・ 地域と企業との連携

問 働き方改革の取組みが進む中、宅配便の再配達によるドライバーの労働負担や物流コスト、さらにCO₂排出量も増加しており深刻な社会問題になっている。荷物の置き配サービスの盗難も増加しており、宅配ボックス設置の普及PRを市としても取り組むべきでは。

答 宅配ボックスの設置と併せ多様な受取方法があることを市のHPやなかつメールなどを通じて広く情報発信し、再配達の削減について市民の皆さんの理解が深まるよう周知を図ります。

問 大分市は、宅配ボックス設置費補助金のPRをしているが、中津市の考えは。

答 再配達の削減を周知する事により市民の皆さんの生活行動の変容を促し、脱炭素に向けた地球温暖化対策や物流業界などの社会が抱える諸問題の解決に繋がりたいと考えており、国や他自治体の動向等に注視しながら、市として今後どのような取組みができるか調査研究を進めます。



さがら あすか
相良 亜寿香
(ほんき)



○ 中津市鳥獣被害防止計画について

問 令和4年度からの農業共済対象の被害現況は。
答 イノシシの被害額は令和4年度658万円、5年度621万円、6年度548万円。シカの被害は4年度47万円、5年度113万円、6年度4万円。実際の被害額はこれ以上だと認識しています。
問 捕獲奨励金の金額と各種補助の件数と金額は。
答 補助対象とする合計は令和4年度5,134万円、5年度4,082万円、6年度5,074万円。令和4年度の補助件数は罾猟3件・銃猟1件で計3.6万円、5年度は罾猟12件・銃猟2件で計12万円、6年度は罾猟7件で計5.6万円です。
問 中津市猟友会の体制と認定狩猟団体数と活動は。
答 猟友会は中津支部41人、三光27人、本耶馬溪35人、耶馬溪60人、山国37人、合計200人で市全域で従事頂いています。NPO法人大分有害鳥獣管理会は、市の一部エリアに限った許可区域で従事頂いています。
問 ジビエ使用についての中津市の今後の計画は。
答 引き続き給食への提供と、ジビエ産業に参入したい企業があれば、国・県の交付金や補助金を利用し、市として調整や支援をしております。



みかみ ひでのり
三上 英範
(日本共産党)



○ 市民病院が地域中核病院としての役割を強化するために
○ 稲作農家の経営継続のために
○ 水路の災害復旧は負担なしに
○ 補助金事件の早期解決を

問 血液サラサラの薬を服用している方が、脳出血をした時、止血を早くできる薬の在庫の確保を。
答 使用頻度が低く、高額で使用期限もあるため、必要な際は30分以内に納品できる体制を整え、治療に支障が出ないようにしています。
問 中津市の稲作農家が経営を続けていくために、農家JA等と協力して、学校給食など市民が必要とする主食の生産・保有の展望を検討すべきでは。
答 国の動向を見ながら、農地の集積・集約、新たな担い手の育成・確保、スマート農業の推進、地域資源の活用など多角的な取組みによって、中津市の農業振興を図ってまいります。
問 水路は稲作の根幹。被災農家分担金は軽減されましたが、事業実施を判断する時の負担は大きいので、負担なしの復旧事業実施をすべきでは。
答 復旧事業費の全額を公費で支出することは適当ではないと考えています。申請時には過去の補助率も加えて説明し、判断していただきます。



ほんだ てつや
本田 哲也
(清流会)



○ 日本遺産やばけい遊覧の活用
・ 旧レストハウス跡地活用計画
・ 通行止め期間の青の洞門の活用
・ 南高耶馬溪校全国募集への活用
○ 「ツールドやばけい」の発展

問 やばけい遊覧で取組む地域活性化策とPRは。
答 体験プログラム「やばはく」の開催や看板整備、市報、SNS等で情報発信に努めます。
問 旧レストハウス洞門跡地の早期活用を。
答 隣接地の購入、及び駐車場と視点場の整備を計画し、令和9年度中の完成を予定しています。
問 通行止め期間中の青の洞門の活用を。
答 岩盤崩落対策工事の早期完成を目指しており、令和8年3月末の完成を予定しています。
問 オランダ橋のライトアップで魅力アップを。
答 地元商工会等とも連携し新たな魅力発信に繋がる取組みを進めたいと思います。
問 中津南高等学校耶馬溪校全国募集への活用を。
答 「日本遺産やばけい遊覧」の持つ価値を学びや体験の中で出来るだけ取り入れたいと考えます。
問 「ツールドやばけい」の経済効果と目標は。
答 今年は478名が参加し30%が市内宿泊などありました。実行委員会と連携協力し800名を目指します。



おずみ としこ
小住 利子
(公明党)



○ 予防医療の推進で*ウェルビーイングの実現を
○ *プレコンセプションケア推進5か年計画策定の取組みについて

問 予防医療の取組みの現状と課題及び対策は。
答 本市では生活習慣病予防のため、特定健診やがん検診、健康相談などを実施していますが、受診率が低く、特に働き世代での受診が課題です。このため休日健診や電話勧奨などを行い、令和6年度からは特定健診受診者へクオカードを配布し、今年度も継続しています。今後はICTや健康管理アプリを活用した支援の導入も検討します。
問 今後のプレコンセプションケアの取組みは。
答 プレコンセプションケアの取組みは、男女を問わず、自身の健康や生活習慣について向き合い、正しい知識を得て、健康的な生活を送る事で、将来の健やかな妊娠や出産につながるよう市では今年度、プレコンの周知啓発のホームページを作成しました。健康づくりの必要性や自分の体の状態を振り返るためのチェックシートや相談窓口等を掲載しています。

語句の説明

*ウェルビーイング (Well Being) とは、心身ともに満たされ、持続的に幸福な状態にあること。
 *プレコンセプションケア (プレコン) とは、妊娠前の健康管理のこと。



おお うち なお き
大内 直樹
(清流会)



- 地域経済を活性化（創業支援、空き店舗対策）
- スポーツ映像配信による市民サービス向上と地域活性化について

問 チャレンジショップは低家賃で空き店舗を貸し、創業者が経営を実践的に学べる制度です。創業支援だけでなく、空き店舗対策や地域業者の仕事創出にもつながり、本市経済の活性化が期待されますが、導入について、検討できませんか。

答 既存の制度を活用してもらい、本市における創業機運のさらなる醸成に努めてまいります。

問 スポーツ振興や教育支援、観光振興の観点から映像配信の有効性の評価をいただきましたが、次に問われるのは「具体的にどう進めるのか」という点だと考えます。AIカメラ導入を単なる負担ではなく将来への投資と位置づけ、小規模でも実証的に取り組むことが重要です。費用対効果の考え方や導入に向けた市の考えを伺います。

答 本市でもスポーツ、教育、観光の各分野で映像配信は意義・効果が期待できます。他自治体の先行事例を参考にしつつ、導入した場合の想定される費用対効果などを考えてまいります。



み え の たま え
三重野 玉江
(清流会)



- 市民に寄り添う次期ごみ処理施設のかたち
- 指定管理者制度と行政財産使用許可制度について
- ・ 渓石園をめぐる事実関係は

問 ごみ処理の広域化について、豊前市や吉富町から話はあったのか。現在の広域処理の協議状況、見直しを含めた今後の方針、市民への情報提供は。

答 豊前市・吉富町より、2市2町でごみ処理施設の建設及び運営経費等を再度精査したいとの申し出があり、事務担当者間で意見交換を行っています。今後も必要の都度議会へ報告し、市民の皆様へも、中津市HPや市報等を活用しお知らせします。

問 選考審査結果通知も送り、契約満了の日も伝えていて、なぜ今回のSNSでの誹謗中傷に至ったのか、どのような行き違いがあったと考えているのか。また今後このような事柄を市としてどう対応するのか。

答 市の手続きに問題はありませんが、投稿動画の内容に事実と異なる点があります。不法行為が明らかな発信に対しては法的措置など毅然とした態度をとる等、発信内容を慎重に精査し個別の事案ごとに適正に対応してまいります。



き の し た も と の ぶ
木ノ下 素信
(清流会)



- 農業振興について
- 河童を生かした観光振興について

問 水稲農家への支援は。

答 本年度は水不足の地域へ仮設ポンプの貸出等を行っています。今後も、米農家が安心して営農を続けられるよう、国・県・関係団体と連携し、支援策の活用や情報提供を実施していきます。

問 市として取り組む持続可能な生産基盤づくりは。

答 後継者づくりやスマート農業機械導入等について、国や県の補助金等も活用しながら支援を行っています。

問 河童を生かした観光コースづくりは。

答 日本遺産事業「やばはく」での体験プログラム造成や、城下町周遊ガイド等、関係団体と協力しながら、さらなる魅力向上に努めていきます。

問 河童を生かした土産品づくりは。

答 九州・中津ブランドにおいて、河童をモチーフにしたキャラクターを設定しています。今後も土産品にとどまらず、中津市のブランド事業等を通じて、地域の特産品づくりを支援していきます。



ふる え しん いち
古江 信一
(前 進)



- 市民病院の病床確保等は
- ・ 今後目指す方向性について
- 大新田海岸の保安林について
- ・ 保安林に指定された時期は
- ・ 周辺の状況変化による対策

問 市民病院は長年黒字経営を続けてきましたが、物価上昇や人件費の高騰等の要因で赤字決算となりました。国が示す診療報酬や病床削減を踏まえて、市民病院として目指す方向性についてお聞きします。

答 今後もこれまで市民病院が基幹病院として築いてきた急性期・高度急性期の医療機能を堅持するとともに、他医療機関と連携して地域完結型の医療・介護提供体制の構築を図っていきます。

問 大新田海岸が保安林に指定された時期と維持管理は。

答 この防風保安林は明治43年または昭和28年に指定され、維持管理は所有者の責任で行い、支障木の問題も当事者間で協議いただいております。

問 周辺の状況は企業誘致を含めて大きく変わりましたが、現状に即した維持管理等、関係者皆さんで改善を協議出来る場を検討しませんか。

答 関係者の協議については、大分県担当に相談したいと思っております。また、当該企業とともにその解決策を考え、市のできる限りの対応をします。



まつば たみお
松葉 民雄
(公明党)



- *RPA活用について
- **DX推進とカスハラ対策**
- 危険木対策について
- 外国人技能人材について
- 小規模水道事業について

問 全国的な社会問題となっているカスハラ対策について伺います。良質な行政サービスは、職員が心身ともに健康で、安心して働ける環境の上に成り立ちます。中津市の対策として、名札姓のみ表記、通話録音装置、*ナッジ理論等の即時導入可能な職員保護策を推進する考えについて伺います。

答 庁内でのカスタマーハラスメント対策としまして、まず、今年度より、職員の名札を苗字のみの記載とし、その際、職員個人の判断により、漢字とひらがな、どちらの記載でも可としています。次に、電話の通話録音装置につきましては、カスタマーハラスメント防止対策として有効であると考えています。今後、導入について、調査・研究を進めてまいります。また、今年度は、ナッジ理論も含め、カスタマーハラスメント対策研修を充実させているところです。今後も、他自治体の事例等も参考にしつつ、庁内でのカスタマーハラスメント対策に努めてまいります。



やまかげ ともかず
山影 智一
(豊の風)



- **カスタマーハラスメント防止条例（仮称）制定について**
- 榎道の駅なかつについて
- 日産の九州生産移管支援
- 商店街、中心市街地活性化

問 不当・不正事案が顕在化して1年。市民、事業者が、普通に相談することができるようになってきました。今後、市民が安心して相談することができるよう、相談窓口の周知等は継続的になされることが重要です。不当・不正な働きかけをする方に対しては抑止力となり、市民等にとっては、安心、安全の担保となります。市の取組みを伺います。

答 不当要求等の防止に関する協定に基づく事務の対応は市民安全課が所管しています。市の役割は、一次相談窓口として、国や県の機関、警察や弁護士会などの専門機関に適切に引継ぎ、事案の発展防止や早期解決に繋がります。各関係機関が、適切な対処と組織的な対応力の向上に取り組むことが不可欠であり、その上で、市が中心となり相互に連携・協力し合う強固な体制を構築し、市民にそのことを広くお知らせしながら、市全体で不当要求等をしない、させないための取組みを進めます。

語句の説明

*RPAとは、ソフトウェアロボットを使って、人間がパソコンで行っていた定型的で反復的な作業を自動化する技術のこと。
*ナッジ理論とは、行動経済学の理論で、強制や罰則ではなく、人々が自発的に自分や社会にとってより良い選択をするように「そっと後押しする」手法のこと。

自由討議

◆大規模災害への備え

- ①中津市で想定される災害
- ②防災対策と避難者対策、避難所施設とその運営
- ③災害に備えての備蓄品は十分か
- ④災害時の女性の視点の取り入れ

(補足説明者：川内八千代議員)



◆中津市におけるひきこもり及び不登校に関する状況と支援策について

- ①ひきこもり把握の課題
- ②相談窓口の一本化
- ③不登校と支援の連携
- ④多様な居場所の確保
- ⑤その他

(補足説明者：松葉民雄議員)



以上の2件について自由討議を行いました。

9月議会で決まった内容

令和7年9月議会は、9月3日から9月30日までの28日間にわたり開催されました。審議の結果、予算関係議案5件、条例関係議案7件、その他の議案6件、合計18件を可決、人事案件2件を同意しました。また請願2件のうち1件を不採択、1件を継続審査としました。

以下にその一部をお知らせします。(詳細はホームページをご覧ください。) なお、決算議案9件は閉会中の継続審査としました。

補正予算

- ◆令和7年度中津市一般会計補正予算(第2号)
- ◆令和7年度中津市国民健康保険事業特別会計補正予算(第1号)
- ◆令和7年度中津市介護保険事業特別会計補正予算(第1号)
- ◆令和7年度中津市後期高齢者医療特別会計補正予算(第1号)
- ◆令和7年度中津市水道事業会計補正予算(第1号)

報告

- ◆地方公共団体の財政の健全化に関する法律に基づく健全化判断比率の報告について
- ◆地方公共団体の財政の健全化に関する法律に基づく資金不足比率の報告について
- ◆専決処分報告について(和解及び損害賠償の額の決定)*4件
 - ・公用車による公務中の交通事故に係る和解及び損害賠償額の決定(2件)
 - ・道路(市道)管理者としての和解及び損害賠償額の決定
 - ・草刈作業中における自動車への破損事故に伴う和解及び損害賠償額の決定
- ◆債権放棄の報告について

人事

- ◆中津市教育委員会委員の任命について
ほんだ たかよ 氏(59歳)(中央町)
本田 貴予
- ◆中津市固定資産評価審査委員会委員の選任について
いけだ ともりの 氏(63歳)(山国町藤野木)
池田 智徳
※()内の年齢は議案提出時の年齢

条例

- ◆中津南高等学校耶馬溪校学生寮の設置及び管理に関する条例の制定について
- ◆中津市職員の育児休業等に関する条例等の一部改正について
- ◆行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律に基づく個人番号の利用及び特定個人情報の提供に関する条例の一部改正について
- ◆中津市印鑑条例の一部改正について
- ◆中津市公共下水道条例及び中津市水道事業給水条例の一部改正について
- ◆小学校の設置に関する条例の一部改正について
- ◆耶馬溪ダムスポーツ公園条例の一部改正について

請願

- ◆学校給食の食器についての請願
以上1件の請願を不採択としました。
- ◆最高裁判決に伴い生活保護制度の充実を求める請願
以上1件の請願を継続審査としました。

その他

- ◆市道の路線廃止について
- ◆市道の路線認定について
- ◆財産の取得について(消防団小型動力ポンプ付軽積載車)
- ◆財産の取得について(iPad及びその周辺機器)
- ◆和解及び損害賠償の額を定めることについて
- ◆事業契約の締結について((仮称)中津市新学校給食共同調理場整備運営事業)

◆賛否の分かれた議案

[議第88号] 事業契約の締結について ((仮称)中津市新学校給食共同調理場整備運営事業)

(個人ごとの表決結果を賛成○、反対×、棄権―、欠席は欠で表しています。)

議案番号	議決結果	前進					清流会					日本共産党			ほんき		市民の会		公明党		豊の風		
		古江	角祥臣	恒賀慎太郎	奥村一義	林秀明	木ノ下素信	相良卓紀	本田哲也	三重野玉江	大内直樹	荒木ひろ子	川内八千代	三上英範	中西伸之	藤野英司	相良亜寿香	千木良孝之	大塚正俊	木佐貫佳子		松葉民雄	小住利子
議第88号	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	○	○	○	×	○	○	○	○

※請願を除く上記以外の議案については、全会一致で「原案可決」、「同意する」となりました。なお、議長は採決に加わらないため斜線として表しています。

第78回大分県民スポーツ大会に参加

○議員ソフトボール

令和7年9月6日(土) 別府市野口原軟式野球場

【一回戦】 16対5で津久見市に勝利

【二回戦】 5対41で宇佐市に敗北



○議員・教委リレー 4位

令和7年9月14日(日)

大分スポーツ公園クラサドーム大分

[左から] 木ノ下素信議員、 湊野真己議員、
菊池徹教育委員、 大内直樹議員、
山影智一議員、 中西伸之議員、
千木良孝之議員



大分県市議会議長会議員研修会



令和7年10月7日(火)に、大分市で開催されました。

退任役員表彰式では、前議長の相良卓紀議員に感謝状が贈られ、その後の講演会では、「混迷続く政治の現状と行方」や「岐路に立つ日本経済～政策・地域・ビジネスに求められるものは」についての研修を受け、知識を深めました。

中津市議会業務継続計画(議会BCP)の策定



令和7年9月30日(火)、中津市議会では、市内で大規模災害、または感染症の大規模な流行等が発生した場合に、中津市災害対策本部と連携することにより、市民の安全安心の確保や被害の拡大防止、議会機能の早期回復を図ることを目的に、中津市議会業務継続計画(議会BCP)を策定しました。

決算審査



令和7年10月1日(水)から10月6日(月)にかけて、総務企画環境委員会、産業建設消防委員会、教育厚生委員会を開催し、令和6年度中に執行した事業等の決算審査を行いました。

☆手話通訳・要約筆記による傍聴を希望される方へ

本会議を傍聴される際、手話通訳および要約筆記による傍聴もご利用いただけます。

事前に手話通訳者・要約筆記者を配置する必要がありますので、傍聴希望日の2日前(土日祝日を除く)までに、議会事務局(TEL:22-0394)へお問い合わせください。

令和7年12月議会の開催日程(予定)

11月	25日(火)	本会議「開会・会期・議案上程」	
12月	2日(火)	本会議「一般質問」(4日間)	
	3日(水)		
	4日(木)		
	8日(月)		
	11日(水)	本会議「議案質疑」	
12月	12日(金)		教育厚生委員会
	15日(月)	常任委員会	総務企画環境委員会
	16日(火)		産業建設消防委員会
	18日(木)	本会議「自由討議」	
	22日(月)	本会議「委員長報告・質疑・討論・採決・閉会」	

★インターネット議会放映(録画)は、いつでも視聴できます。

本会議の映像をパソコンやスマートフォンよりインターネット上でご覧いただけます。

ライブ配信(生中継)と録画配信で、録画配信には、見たい映像を日付や議員名等から検索できる機能をつけています。

インターネット放映は

[中津市議会HP](#)

[中津市 議会中継](#) よりご覧ください。



【QRコード】

生中継中は **LIVE** アイコンが点滅します



各議員の一般質問、代表質問、議案質疑の内容につきましては、市議会日程の該当日の約2日前に市議会ホームページでお知らせいたします。